

褥瘡ケアにおける近年の変化

じよくそう

「頑張らない」ケアのススメ

*褥瘡とは 褥瘡のいま・むかし

以前は床ずれ・寝たこと言われ寝たきりの方だけに起こるイメージの強かった褥瘡ですが、昨今ではずれや摩擦の影響、局所の体温や湿度、そして何より本人が保つパーソナリティにより様々な要因が複合的に重なり、高齢者から若年の方まであらゆる世代においてリスクのあるものであるという考えが一般的になってきました。現在ではMDRPU(医療関連機器褥瘡)という医療機器により自重以外の圧迫が要因でも皮膚障害が起きた場合も褥瘡として取り扱うようになるなど、その範囲は多岐に渡るものとなっています。

*医療・介護を取り巻く状況と褥瘡

褥瘡は高齢化と入院日数の短縮化にともない、治癒まで病院で完結できる物ではなくなっています。褥瘡をもったまま、在宅や、療養型病院施設など様々な選択肢の中で本人、家族が生活していくことが必要となります。

患者本人が高齢化していくなか、核家族化が進んだ昨今において主介護者がご家族となった場合に老老介護となる状況も珍しいものではなく、特に在宅においては負担が少なく、また継続性のある「頑張らない」ケアが求められています。



*「頑張らない」ケアとは

以前は主たる介護者がすべてを行い、とすれば介護鬱、看護鬱とよばれる状況に追い込まれてしまうことも見られた在宅での褥瘡ケアですが、現在は様々な社会支援を活用することでそれを防止する取り組みが行われています。訪問看護の活用や、デイサービス、ショートステイなど、在宅から病院の二択だけではなく、様々な継続先、支援先が検討できるようになりました。患者本人の意志はもちろん重要ですが、疲弊してしまつたご家族の一時的な回復のために活用されることもあるようです。様々なサービスを組み合わせ、患者と家族にとって負担がなくて継続できる生活のあり方を模索できるようになりました。詳しくは担当のケアマネジャーとの相談にはなりますが、なによりまずは正確な介護認定をうけ、その上でどのような社会支援をどのように活用していくのかをプランニングしてもらうことが重要です。その際に患者・家族が何を望んでいて、金銭的にはどの程度の負担が可能なのか、今一番困っていることはなにか、どうなったら生活が維持できるかなどを具体的にしておくことと相談がよりスムーズになるでしょう。

しかしながら様々な社会保障制度を活用いただいても、特に在宅において日中は様々な支援が入りますが、夜間はご家族の負担が大きくなることも否めません。数時間おきに行

う体位変換はご家族の睡眠を阻害し、尿や便が出た際に行う陰部洗浄はお湯の用意や洗い流し、汚物とゴミの処理などで大きな負担となります。そういったときにご活用いただきたいのが、自動体位変換機能のついたエアーマットレスや、高機能なポジショニングピロー(除圧用枕)、交換回数が少なくても大丈夫な高機能タイプのオムツ、拭き取るだけで洗流す必要が無い洗浄クリームなど、導入することで介護の手間の減る医療機器や衛生材料です。これらは介護保険でレンタルできる物品もありますので、こちらも担当ケアマネジャーとご相談の上、導入を検討していただけると良いと思います。



社会支援と人と物。その三つを上手く活用することで、患者も介護者も「頑張らない」ケアで長く元気にその人がその人らしくいられる場所で過ごしていただければと思います。



府川 博俊
看護科

皮膚・排泄ケア認定看護師